

特集

将来の希望を春日井で育む

「春日井」で夢を抱き育んだ「春日井人」にスポット

騎手に憧れたきっかけは流鏝馬やぶさめ

中学生の頃、父が上田楽町の伊多波刀神社で流鏝馬をする姿を見たのがきっかけです。馬に乗っている姿を見て、自分も馬に乗りたいと思い、騎手を目指しました。最近はずいぶん行けていませんが、競馬学校に通うまでは毎年流鏝馬を見に行っていました。

騎手になるのは簡単じゃない

高校卒業後、乗馬クラブに通い、地方競馬教養センター騎手課程に合格して、2年間訓練をしました。馬に乗るためには体重制限を常に行わなければならないですし、落馬していつけがをするか分からないのが騎手です。そんな中、騎手になることを許してくれた両親には感謝しています。

第一に勝つこと

今年はずっと1勝することを目標にしたいです。それから勝ち星を積み重ね、将来的に所属場の中で1位となるリーディングジョッキーを目指し、いつか全国で頂点に立つことができるように努力したいです。



努力は

必ず実る

INTERVIEW 01



騎手
ながえ けいご
長江慶悟さん

皆さんへメッセージ

新型コロナウイルス感染症の影響で競馬場は閑散とした日々が続きました。コロナが落ち着き、外出ができるようになったら、ぜひ騎乗している姿を見に来てください。ぼくも春日井市出身の一人として市を盛り上げられるように精いっぱい頑張ります。

— 長江慶悟 —

春日井市出身。笠松競馬場に所属の騎手。昨年9月に騎手試験に合格し、10月5日に笠松競馬場でデビュー。





小説家
みなと
湊ナオさん



ともに生き延びよう。

また違う世界が見えるから。

転機は東日本大震災

いい歳して夢を見ているのかと言われるのが怖く「小説を書きたい」と口にはできませんでしたが、そんな中、東日本大震災に遭い、その状況に揺さぶられるように筆をとりました。約10年前、小説修行を経て、昨年受賞しました。作家としては遅めのデビューですが、ここからスタートできることに感謝しています。

デビュー作は水道みちと

塔のある風景に着想を得て

デビュー作『東京普請日和』では、主人公たちの故郷として、八田町の水道局(名古屋市上下水道局鳥居松沈でん池)にあった塔をモデルに水道みちと給水塔のある風景を書きました。今も帰省するたびに春日井の自然に癒されています。特に、八田川沿いのふれあい緑道が好きで、川べりを歩くと、心が落ち着きます。

小説を読むことは

新たな実体験

どんな小説でも、ひとたび中に入ってしまうと、リスクなく自分以

外の人の経験ができます。主人公の生きる世界を読むことで、経験値がレベルアップします。ぜひ、小説を手にとっていただき、新たな経験をさせていただきたいです。

皆さんへメッセージ

2月に出版する予定の新刊では、つまりを感じながらも前に進む、年齢も立場も異なる3人の姿を書きました。コロナ禍で誰にとってもままならぬ昨年に執筆した小説です。この困難の中で、今までの平凡な暮らしはたくさんの人に支えられていたと遅まきながら気づきました。新しい年をともに生き延び、前を向いて新しい物語を届けたいと思っています。

— 湊ナオ —

春日井市出身。第11回日経小説大賞を受賞し、小説家としてデビュー。現在は茨城県つくば市のAベンチャーに勤務しながら、小説を執筆。



きっかけは大学の

サークル活動

大学一年生の時に、ダンスのサークルに所属していたことがきっかけです。サークルではアイドルのダンスをコピーしたり、ダンスの大会に出場したりしていました。ダンスをすることに魅力を感じ、アイドルになりたいと思いました。

アイドルはファンの

声援あってこそ

「キラキラ輝いている」。アイドルにそんなイメージを持っている人も多いかもしれません。しかし、実際は楽しいことばかりではなく、厳しいことも多々あります。人前でパフォーマンスするため、自分の芯を持っていないといけないですし、練習もかなり必要です。厳しい世界だからこそファンの声援が励みとなり、自分の成長する姿を多くの人に见てもらえるのはアイドルという仕事の魅力だと思います。

昨日の自分より 今日の自分



INTERVIEW 03



アイドル
佐藤佳穂さん

春日井は大好きなまち

春日井市に住んでいた頃の友人がいて、今でも仕事の合間に連絡を取ったり、交流が続いています。私は人見知りなのですが、皆さんが積極的に話してくれるので仲の良い友人ができました。だから、私の大好きなまちです。

皆さんへメッセージ

昨年は新型コロナウイルス感染症の影響でなかなか外出できなかつたと思います。適切な距離を保ちつつも、こんな時だからこそ、積極的に関わり合い、助け合えたら良いと思います。直接劇場で会うことは難しいかもしれませんが、SNSなどを通して、皆さんに元気を届けたいです。

一 佐藤佳穂

過去に春日井市在住。SKE48チームEのメンバー。23rdシングル「いきなりパンチライン」で選抜メンバーとなり、アイドルとして活躍中。



@2020Zest, Inc.



シンガーソングライター
やまぐち だいき
山口大貴さん



時代の変化に合わせ、

自分らしく

音楽は苦手だった

小学生の頃、人前で歌うことが恥ずかしく、音楽が苦手でした。しかし授業で、大きな声で歌うと誰も笑うことなく、周りから褒めてもらえました。そこから、音楽に対する苦手意識がなくなり、興味を持つようになりました。

音楽を始めたきっかけは「19」

2人組バンドの「19(ジューク)」の曲を聴き、アコースティックギターの存在を知って、ギターに興味を持ちました。そして、中学2年生の頃に友人とギターを始め、高蔵寺駅でギターを弾いていました。

自分にとって

春日井は唯一無二

私にとって春日井市は唯一の故郷であり、ライブなどで自己紹介をするときには春日井で育ったということを行っています。そこから僕の音楽に興味を持っていただき、ファンになってくれる人も多くいます。こういった繋がりで自分のことを知ってもらえることは非常にうれしく思います。

皆さんへメッセージ

昨年は新型コロナウイルス感染症の影響により、多くのイベントやライブが中止となり、外出ができなくなりました。孤獨感がありました。しかし、自宅から自分の音楽を配信した際に、皆さんから応援の言葉をいただきました。本来なら、元気を届ける立場かもしれませんが、逆に皆さんからたくさんの元気をもらいました。どんなときも一人ではなく、誰かが応援してくれたり、支えてくれる人がいるということを改めて実感しました。また皆さんの前で歌を披露する際には、自分の歌を通して、皆さんを笑顔にできればと思います。

— 山口大貴 —

春日井市育ち。老若男女問わず多くのリスナーから支持を得ている、シンガーソングライター。

曲の一つにサボテンをモチーフにした「鎖音伝」

サボテン
作詞・作曲し、
YouTube
でも公開中。

